

地域新聞 ショッパー



2018

8/3

号

vol.2216

株式会社 ショッパー社

〒192-0083 東京都八王子市旭町12-7
KDX八王子ビル4階

tel.042-646-7701 (代表) www.shopper.jp/d

毎週金曜発行

水・木・金曜配布

購読料無料

八王子中央

ショッパーが
WEBページをつくれます

ちいこみQ!

人気のコミュニティサイト
出店でお客さまを増や
しませんか?
http://www.shopper.jp/campaign/chicom.html

「そろそろお薬飲む時間だよ」と声を掛け、薬の飲み忘れを防いでくれる薬箱型のコミュニケーションツール「スマイルメディくん」を開発した八王子市新町の会社・デジレクト(電042・686・0671)で代表取締役の五十嵐貞治さんに聞きました。

お薬箱がしゃべるって?



スマイルメディくん(6264円)は健康知識や早口言葉も教えてくれる



箱底には診察券なども収納可



話す声はスピードもゆっくり、温もりがある

わかりやすく、
かわいらしいものを

「スマイルメディくん」は薬を飲む時刻を設定すると音声で教えてくれるほか、時間帯に応じてさまざまな健康ネタ等を話すなどいろいろな機能を持っています。手のひらに乗るほどの大きさは薬箱としては小さいので

は?と感じますが、そこに開発のポイントがあったようです。「当初、大手の玩具メーカーから企画を持ち込まれた時は、たくさんさんの機能が付いた大きな薬箱でした。ですが、私たちが目指してきたのは、わかりやすく、かわいらしいものを作るということです。そこにこだわり、企画を修正していきまして」と五十嵐さん。余分な機能を取り、できるだけコンパクトにすることで操作はより簡単になり、身近に置けるサイズになりました。そして前面に丸い目と口を付けることで、四角い薬箱は「スマイルメディくん」になったのです。

コミュニケーション が大切

思います。

「お薬箱といっても、実は収納スペースはそれほどありません(笑)。大切なのはコミュニケーションなのです。この小さなメディくんが毎朝起こしてくれ、話し掛けてくれる。お客さまはそれに対して、薬を飲んだり、応答したりとアクションを起こします。いつもそばに置くことでメディくんと触れ合う時間ができ、自然なコミュニケーションが生まれるのだと愛されています。

2005年の創業以来、シニア向けの商品を開発・開発してきた同社の原点は産まれた時と同じ体重でできた縫いぐるみ「体重ベア」。予想していた「子から親」へのプレゼントではなく、親が子供「へ孫の体重で作ったものを贈る需要が多かったことが、その後のシニア向け商品のヒントになったそう。2作目のくまの子「くまちゃん」は今ではちょっと懐かしい風合いも人気で、長く愛されています。



「アイデアは体を動かしている時などに浮かぶことが多いですね」と話す代表取締役の五十嵐貞治さん